

# 水中の遺跡・災害痕跡調査と地名・伝承の比較検証を通じた

## 防災施策立案、防災教育推進のための調査研究事業

実施主体：文化庁  
事業費：12百万円  
対象事業：調査研究事業

### 事業目的

地名・伝承と水中遺跡の比較検証により、災害の実態を科学的に明らかにし、防災教育や防災対策立案に資するデータの活用モデルを構築することで、防災教育に活用可能な教材としてまとめ、地域住民の防災意識の向上を図ります。

### 事業概要

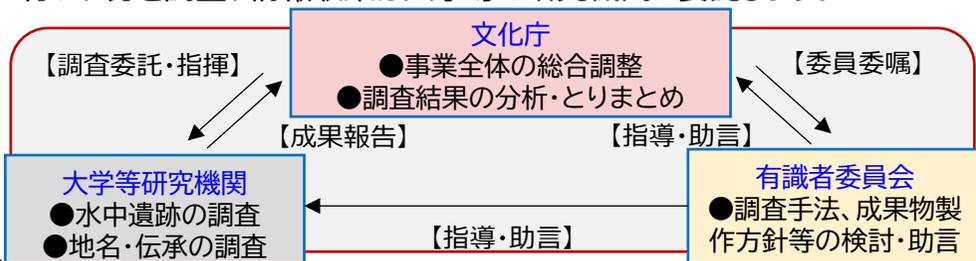
地名や伝承が避難行動に結び付いた例が注目される中、遺構の保存状態に応じた検証手法が求められていることを踏まえ、災害痕跡が陸上に比べて良好に保存され、記録や伝承が豊富に残る琵琶湖の湖底遺跡について検証を行います。



琵琶湖の湖底遺跡や災害痕跡を調査し、災害に関する地名・伝承と照合することで災害の実態を明らかにし、防災教育に活用する教材等を作成し公開します。

#### <事業スキーム>

事業全体の企画立案は、有識者委員会からの助言を踏まえて文化庁が行い、現地調査、情報収集は大学等の研究機関に委託します。



### 実施イメージ

#### <本事業で実施する取組>

大学等と連携し、琵琶湖湖底の災害痕跡と地域の地名・伝承を調査することにより、災害の規模・範囲等を明らかにし、防災に資する情報を整理・可視化します。



釜石市では「津波てんでんこ」（津波が来たらてんでばらばらに逃げろとの意）の教訓を学校教育に活用し、東日本大震災時の被害が最小限に抑制されました。

長浜城沖湖底遺跡は文政近江地震で水没した江戸期の遺構で、被災状況が水中に保存されており、将来の地震被害の予測・対策に活用可能です。



#### <本事業により得られる効果>

水中遺跡を活用し、災害の実像を科学的に解明します。地域固有の地名・伝承と災害リスクを結び付けた新たな防災教育や防災対策のモデルを創出することができます。